

Aroma Shooter を用いた香り情報通信

Scent Communication Using Aroma Shooter

(株) アロマジョイン °金 東煜 (ドンウク)

Aromajoin Corp., °Dong Wook Kim

E-mail: dongwook@aromajoin.com

視覚の場合、離れたところの光情報が瞬時に目に届くため、切り替えも瞬間的に行われる。聴覚の場合も同様、瞬時に届き、瞬間的に切り替えられる。然しながら嗅覚は、空気の流れに依存しているため、短時間で空気の流れを制御しない限り、香りを遠くまで届けることも、瞬間的に切り替えることもできない制約が伴う。嗅覚も視覚や聴覚のように時間的制御のみならず、空間的にも制御可能にするためには、ユーザが感知できる香気成分をユーザの鼻孔にめがけてダイレクトに噴射した方が効果的である。即ち、発香に多用されている液体香料を霧状にして拡散させる既存の液体噴霧方式ではなく、香りを含む少量の空気に指向性を持たせ、ピンポイントで提示する気体噴射方式を用いれば、香り成分を局所空間（鼻孔周辺）に必要な時間だけ到達させることが可能になる。

このような技術コンセプトをもとにデジタル制御信号に応じて香りが残らずしかも瞬間的に切り替え提示が可能な嗅覚ディスプレイとして商品化を行ったのが香り噴射装置「Aroma Shooter®（登録商標第 5563235 号）」である。本講演では、最長 2m 先までピンポイントで香りが届く新規デバイス「Aroma Shooter 3」（図 1）の実演を行う予定である。



図 1. Aroma Shooter 3

なお、Aroma Shooter を用いたソリューションとして、VR コンテンツに香りを加えることで臨場感や没入感が高められる「①エンターテインメント」への利用事例をはじめ、フレグランス製品を提供する店舗において集客力の向上やユーザが好む香りのデータ収集に繋がる「②デジタルサイネージ」に加え、パーソナル空間に香りを加えることで生産性の向上を狙った「③空間デザイン」における応用事例を紹介する。

さらに、YouTube 動画コンテンツのシーンに合わせて香りを楽しむことができるユーザ参加型の香り動画共有・配信サービス「AromaPlayer®（登録商標第 6098241 号）」について紹介するとともに、パーソナル香りデバイス「Aroma Shooter Wearable」についても紹介する予定である。